

令和4年度 水田魚道設置指導者全国研修会

令和4年6月14日（火）から15日（水）にかけて、宮城県栗原市において、水田魚道設置指導者全国研修会を開催しました。今回の研修会には、2日間通して参加する研修生9名のほか、1日目の講義だけを聴講する聴講生12名を加えた合計21名が参加しました。聴講生については、宮城県から、「東日本大震災から10年が経過し、復興第一の整備ではなく、今後は環境にも配慮した整備を宮城県としても推進していく必要があるため、県・市町村の行政職員や多面的交付金に係る活動組織等に講義だけでも参加させたい」との要望があったため、特別に設けたものです。

初日は農村環境の基礎知識、水田魚道の現状と課題、水田魚道の開発・普及と波付U型、丸型水田魚道の設置方法と管理等について講義を行いました。また、宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターにおいて、ラムサール条約登録湿地の「伊豆沼・内沼」の自然環境や環境保全に係る活動内容を説明していただきました。

参加者からは、「水路ネットワークの重要性が理解できた」、「とても分かりやすい研修だったので、西日本地域でも開催してほしい」、「既に製品化された水田魚道があることを初めて知った」といった研修を評価する意見の他、「もう少し研修生が魚道設置作業に関わる時間があれば良かった」、「環境問題等への関心が低い農業者から水田魚道設置の必要性について理解を得るにはどうすれば良いかももう少し議論したかった」など、今後につながる意見・感想が寄せられました。



講義風景



組立作業



設置作業



集合写真